北小松古墳群・
和田ヶ平古墳群
から出土した玉類

第21回

発掘展

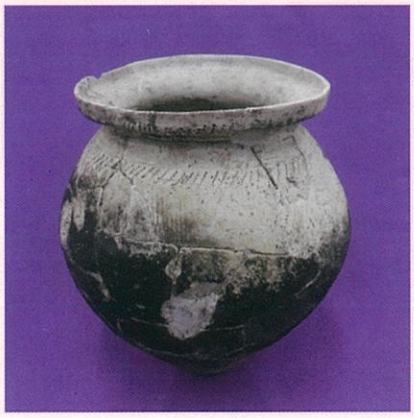
～夏休み！子どものための考古学～

平成30年7月25日（水）～平成30年8月26日（日）

弥生時代の久留倍遺跡（約2000年前）

弥生時代の久留倍遺跡の想像図

大矢知町で見つかった久留倍遺跡からは、弥生時代（約2000年前）にあったムラも見つかっています。久留倍遺跡では、弥生時代の人びとが生活に使っていた道具類が数多く見つかっています。

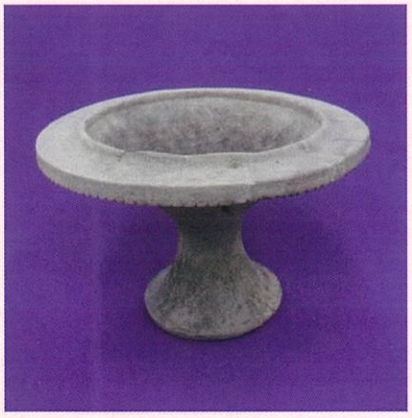


弥生土器　甕

土器の下半分は、まっ黒に煤けています。土器の中にお米などを入れて、煮炊きに使ったためです。

弥生土器　壺

貯蔵に用いられた土器です。壺の表面は、模様をつけて飾られています。

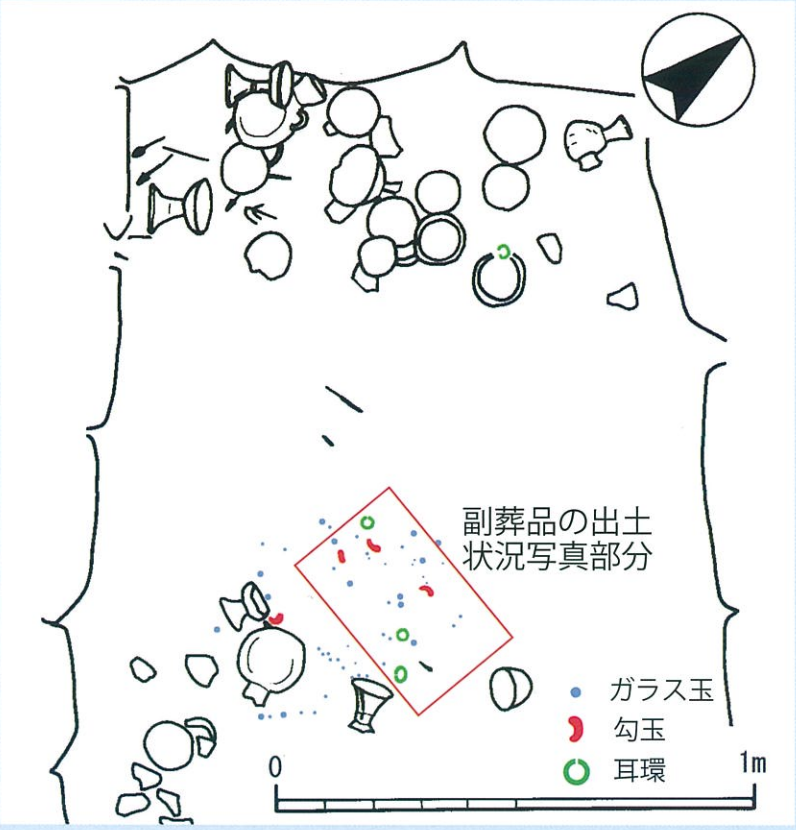


弥生土器　高坏

食べ物の盛り付けに用いられた土器です。

古墳時代（こふんじだい）の和田ヶ平（わだがひら）1号墳（ごうふん）（約 1400 年前）

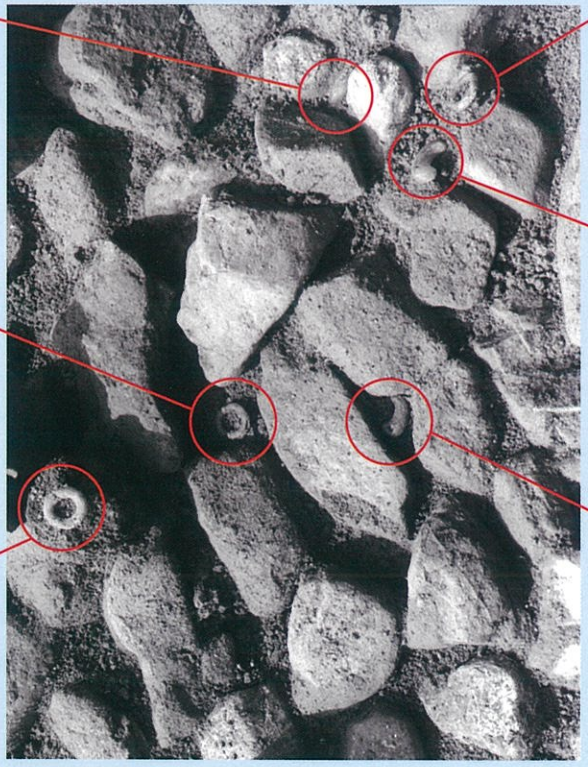
石室の全景



石室内副葬品の配置

山田町にあった6世紀後半から7世紀前半にかけての古墳です。1964（昭和39）年に発掘されました。

直径 13.4m、高さ 0.75m の円墳で、横穴式石室の大きさは幅 1.65m、長さ 4.5m でした。



副葬品の出土状況

江戸時代の四日市代官所跡（約410～150年前）

現在の市内中心部は、享保9（1724）年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今の奈良県）領時代を除くと江戸時代を通じてて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、市内北町の中部西小学校の場所にありました。なお、代官所の建物は明治時代になると、三重県庁等として使われていましたが、明治9（1876）年にすべて焼失しました。

代官所の堀にかかっていた橋の橋脚（手前が代官所）

明治時代に描かれた代官所の絵 水谷百碩画
四日市市立博物館蔵

小皿

肥前国（現在の熊本県）で作られた小皿です。風景が描かれています。

しゃもじ

モミの木で作られています。現在のものと比べて大きいのは、大きな釜からごはんをよそっていたためです。

コラム　お皿が展示されるまで

この皿は、土の中から割れた状態で発見されました。

割れた残りの破片は見つかりませんでしたので、石こうで足りない部分を作って、本来の形に復元しています。

第21回　発掘展～夏休み！子どものための考古学～
◆会期　平成30年7月25日（水）～8月26日（日）
◆場所　四日市市立図書館　2階展示コーナー
◆編集　四日市市教育委員会　社会教育課
◆発行　四日市市教育委員会　平成30年7月25日